

**製品名: p53 (リン酸化 Ser392) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05171**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	53kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TP53
別名	TP53; P53; Cellular tumor antigen p53; Antigen NY-CO-13; Phosphoprotein p53; Tumor suppressor p53
遺伝子 ID	7157.0
SwissProt ID	P04637
免疫原	抗血清は、Ser392 のリン酸化部位周辺のヒト p53 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 344-393

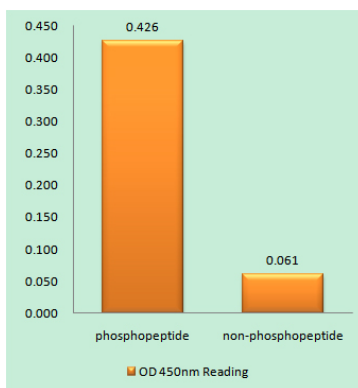
**背景**

核タンパク質である腫瘍タンパク質 p53 は、細胞周期の制御、特に G0 期から G1 期への移行において重要な役割を果たします。正常細胞では非常に低濃度で存在しますが、様々な形質転換細胞株では高発現しており、形質転換および悪性化に寄与すると考えられています。p53 は DNA 結合タンパク質であり、DNA 結合、オリゴマー形成、および転写活性化ドメインを有します。

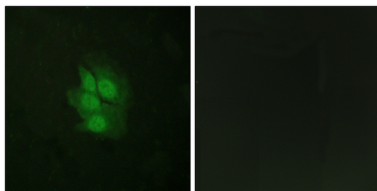
## 研究分野

幹細胞経路; WNT; WNT-T 細胞;  $\beta$ -カテニン; SAPK\_JNK; AMPK; Cell\_Cycle\_G1S; Cell\_Cycle\_G2M\_DNA; MAPK\_ERK\_Growth; MAPK\_G\_Protein; PI3K/Akt; Protein\_Acetylation

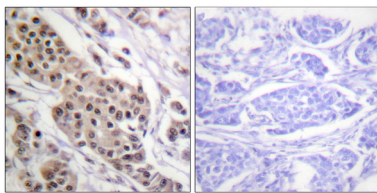
## 画像データ



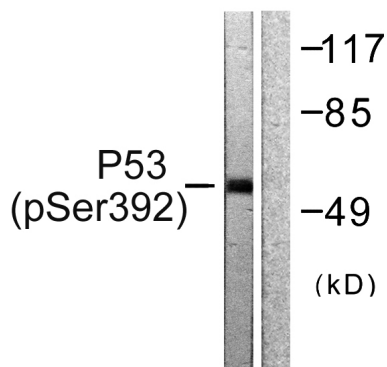
p53 (リン酸化 Ser392) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



p53 (リン酸化 Ser392) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



p53 (リン酸化 Ser392) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



エトポシド 25 $\mu$ M 60%処理した 293 細胞ライセートの p53 (リン酸化 Ser392) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。